

浸種の水温は12℃以上、15℃未満で！ 催芽は、焦らず芽切れをしっかりと確認！

◎浸種

- 浸種の水温を低くせず、12℃以上から15℃未満で行い、積算水溫で120℃を確保します。
- 浸種を始めるときの水溫が低いと、催芽時の芽切れが不揃いになり、発芽勢も劣ります。

◎催芽

- イネは登熟期間が高温になると種子の休眠が深くなります。
- 浸種が十分であっても、**本年は催芽を始めてから芽切れするまでの時間が、例年よりも長いという状況がみられています。**
- 必ず、しっかりと芽切れ（ハト胸状態90%を目安）していることを確認**してから、播種作業に入りましょう。
- 特に、休眠が深くなりやすいとされている「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」、酒造好適米は注意が必要です。



◎播種作業

- 田植日から逆算し計画的に播種**を行いましょ。移植適期は**5月15～20日**です。
- 田植えの遅れは初期生育の遅れの要因に、老化苗は活着不良の要因になります。

☆作業時期の目安【田植えを5月20日にする場合】

田植え日から逆算して計画的に！

苗の種類	乾籾重 (g/箱)	水漬開始日	催芽日	播種日	育苗期間	葉数 5/20
稚苗	150～180g	4月12日	4月24日	4月25日	20～25日	2.5枚
中苗	80～120g	4月2日	4月14日	4月15日	30～35日	3.5枚

◎土づくり肥料を積極投入

- 天候不順な中、安定的に米の品質・収量を確保するためには、「土づくり」は必須技術です。特に、**ケイ酸資材は①根の活力維持、②登熟能力の向上、③いもち病抵抗性向上**の効果が期待できます。土壌pHの改善にも有効です。積極的に施用しましょう。

【施用の目安】ケイカル 120 kg/10a

- 土壌からの養分の供給力増加や、登熟不良・品質低下軽減のため、**耕土深15cm**を目標に耕起を行いましょ。

STOP！農作業事故

作業前には、機械の点検、危険箇所のチェック等を行い、農作業事故をなくしましょ。

令和6年度 農作業事故防止運動春季強化期間（4/10～6/10）